ヘ3
2378
337

特
遠 3
2378
337

柳亭種彦校閲
蒼溪菴主人作
歌川國安画圖

合巻
壹部

狐奉之監觴

一名 桜花朱七物語

維時 文政二年
巳卯孟春發市 文壽堂板

一穴の化去遠蒼溪といふの猩縟入のすゝ陰を求て狐奉
とゝ冊子を編ゲ栟亭を訪て曰吾ハ原来雪女乃素人
なれバ京潟のもる傳も古者ゲ繪巻のノツペラボウ眼鼻
なきあるゝ所あらんと稿を机上に投くさる鳴呼昔
物ゝて信田の狐鳥居甲越る作者よゆゑ愛好の金平
本甚深なる推敲ゲ牡丹花菴の光
を潛飛頭蠻の長を割姑獲の裾の短を添くゝ三桁
三冊物とゝなるそれ志く漢土のこゝいくゞ繼ゲ悪て後毒
ゲ棟本ようゝれ物語ハ怪異ゝ載てゝ朝のことゝ
いゝで欲ゲふきて背負物世古葛籠の怪事ハ古切雀ふ歴然
たりされバ怪異鬼話といで瀬戸の微意ゝ意るゝ所ゝ
蠱の因ゝ見ゝ長人氣ゝ見ゝ元奥手ゝ大きゝ所ゝ沼ゝ

文政二年巳卯春正月　柳亭種彦誌

伊勢物語

月影
陽右衛門

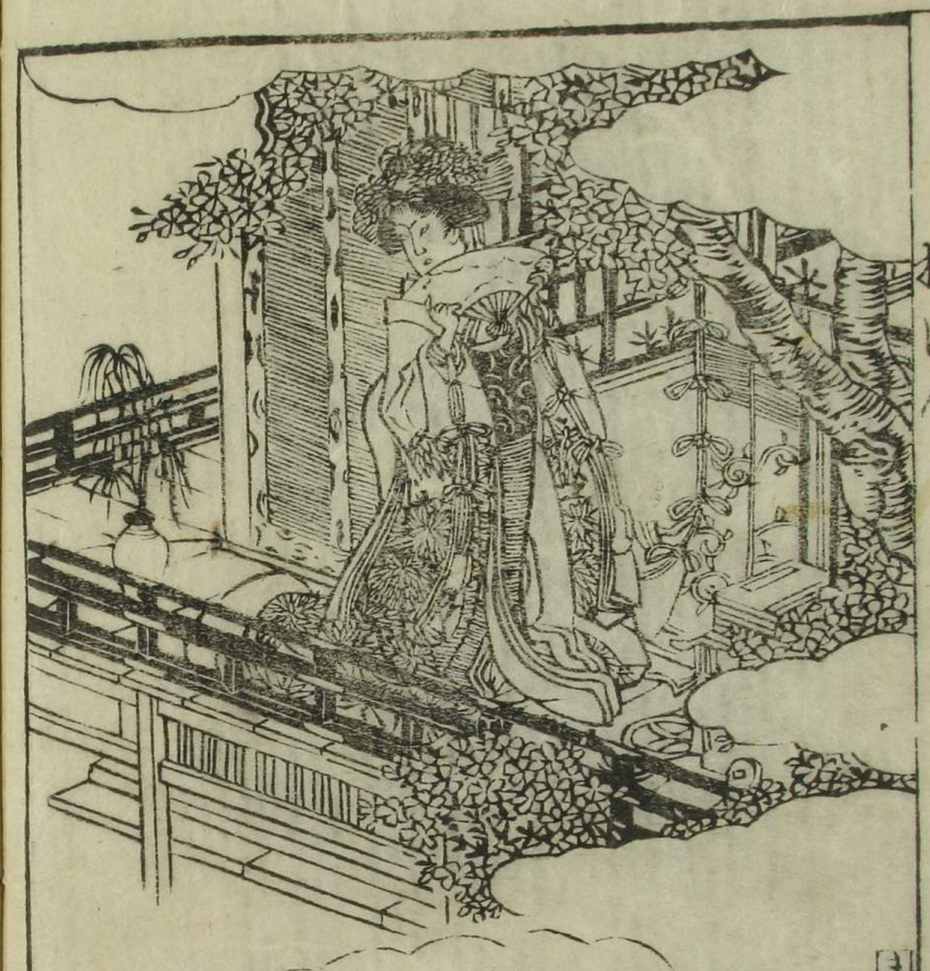
貝野原の
小女郎
狐

種彦

大和国
宇知郡
鈴鹿の
封長
露次郎

島の閑兵衛
刀屋
桂左門娘
於花

刀屋
手代
半七



まへのつゞき ある日うつ
きりをとりいづ
くるぱうはそこら
とゐいふくろをてう
きりあの うらをくぎ
たきまつたるとこれを
うらへつけこれば
ひきうあーくり
くてのちいろすの
ぶくこゝろうれに
いでるゞこゝろしも
やまひの ようで
なれば ゆく ゞく
のれ今をきうり
とさきこゝちそいこ
きうあるうめ
ありれば あるさ
こゝろとうれ
ゆるきーゞこゝに
いるゝーくーくり
なくるゆくさ
ありつはれやるれ
ぬいるるれば
いこゝゞーく
まひうらの

一万度御祓 牧太夫宣長

つゝき

十九

茗溪庵主人作

柳亭種彦添削

歌川國安画